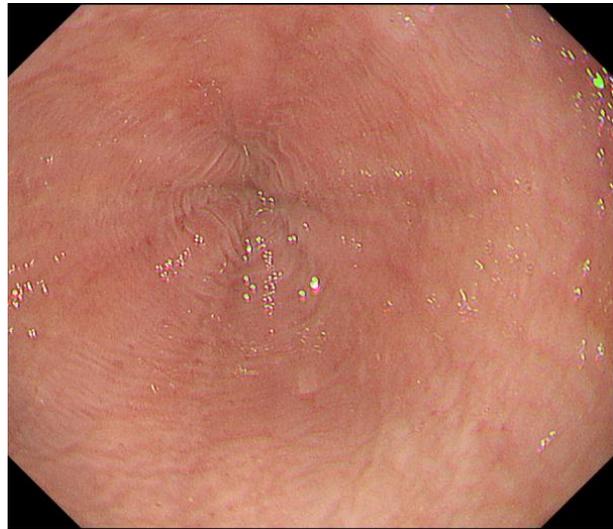
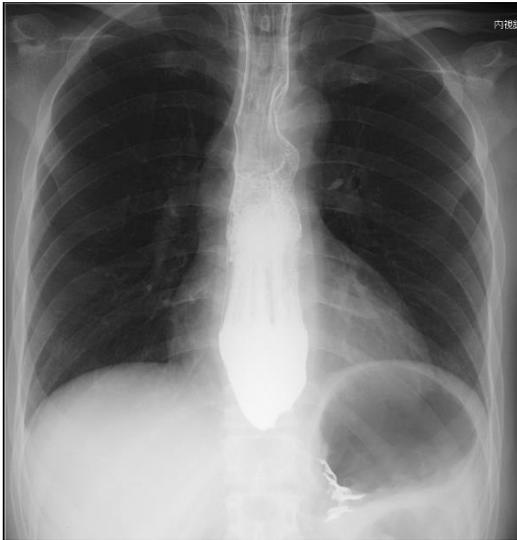


次の文を読み、問1～3に答えよ。

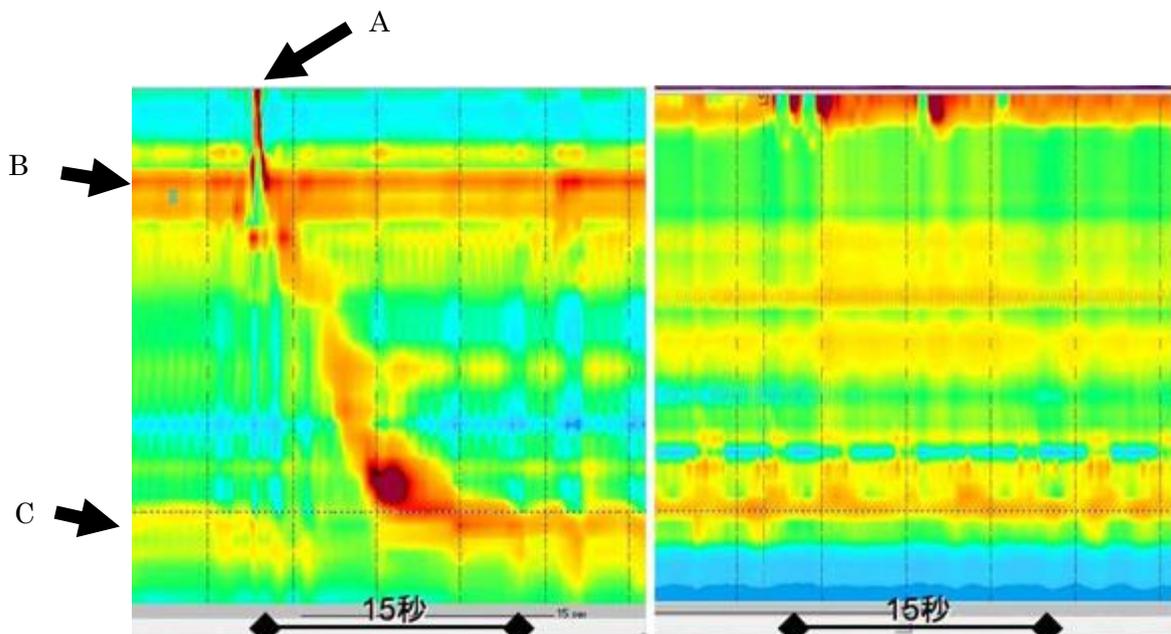
42歳の女性。食事の際の胸のつかえる感じを主訴に来院した。3年前から飲み込む際に違和感を覚えていた。1年前から水を飲むことも辛く感じるようになった。上部消化管造影画像と内視鏡像を次に示す。



問1 この疾患について正しいものを3つ選べ。

- a. 男女比は1:1である
- b. 年間発生率は10万人対1～2人
- c. 発癌率は上昇しない
- d. 下部食道括約筋の圧は40～50mmHgほどである
- e. 食道蠕動波が消失する

問2 食道内圧検査を示す（左：正常、右：アカラシア）。正しい組み合わせを選べ。



	A	B	C
a	嚥下	食道入口部	胃接合部
b	嚥下	胃接合部	食道入口部
c	胃接合部	嚥下	食道入口部
d	胃接合部	食道入口部	嚥下
e	食道入口部	胃接合部	嚥下

問3 この疾患に用いる治療法で誤っているものを選べ。

- a. 内視鏡的筋層切開術 (per-oral endoscopic myotomy : POEM)
- b. Ca拮抗薬
- c. 外科的治療 (Heller-Dor手術)
- d. β 遮断薬
- e. 亜硝酸薬

次の文を読み、問 4～6 に答えよ

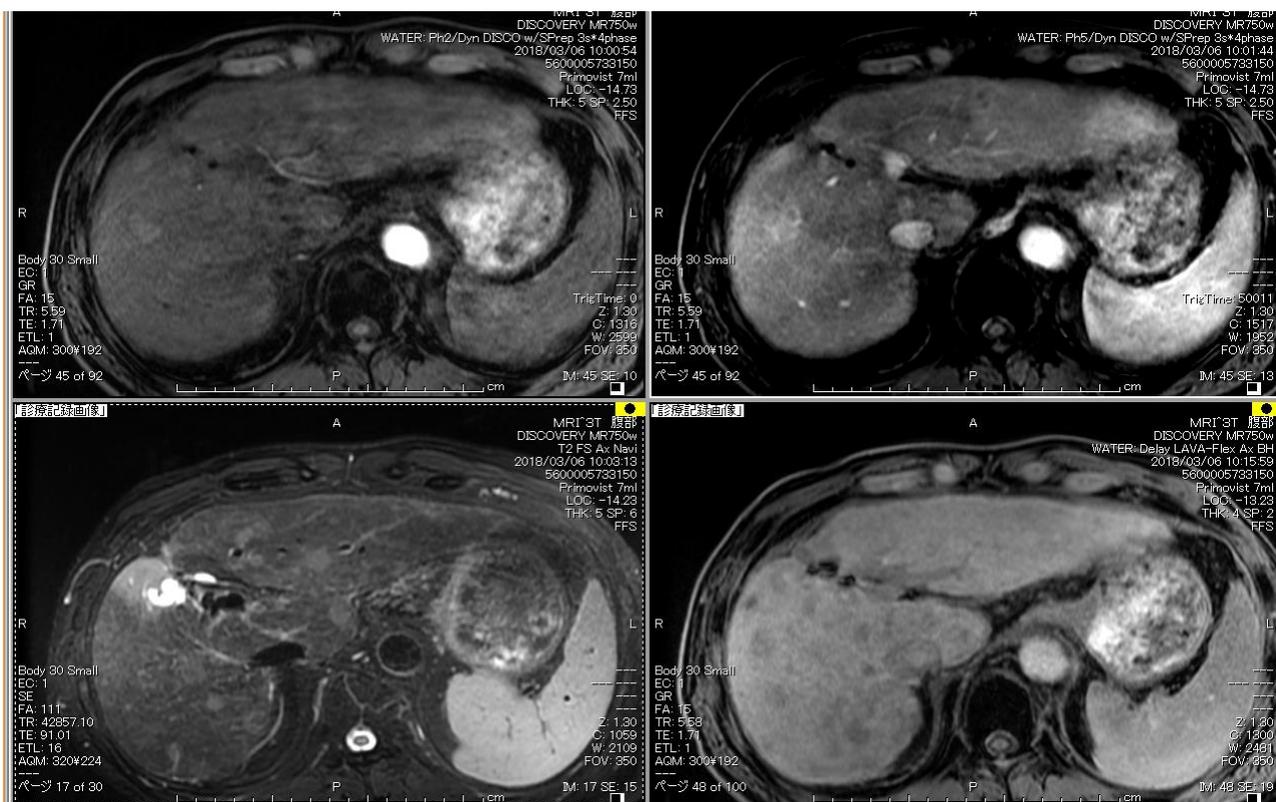
67 歳の男性。

現病歴：9 年前に血小板低下を指摘されて近医を受診した。超音波で肝臓に多発腫瘍を指摘された。

現症：意識は清明 羽ばたき振戦は陰性。身長 160cm、体重 58kg。体温 36℃。脈拍 90/分 整。血圧 120/85mmHg。腹部は平坦、圧痛を認めない。下肢に浮腫を認めない。

検査結果：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球 277 万/ μ L、Hb 9.9 g/dL、Ht 28.7%、白血球 2,530/ μ L、血小板 7.2 万/ μ L。血液生化学所見：総蛋白 7.1 g/dL、アルブミン 2.6 g/dL、クレアチニン 0.78 mg/dL、総ビリルビン 1.4 mg/dL、AST 115 IU/L、ALT 50 IU/L、ALP 308 IU/L。PT 68%、免疫学的所見：HBs 抗原 (-)、HCV 抗体 (+)、AFP 2,170 ng/mL、CEA 2.1 ng/ml。

腹部造影 MRI を次に示す。



問 4 正しいものを 1 つ選べ。

- 約 30% に肝硬変を認める
- 本症例は非代償性肝硬変である
- B 型肝炎ウイルスが原因として最多である
- 腹部超音波では辺縁低エコー帯となる
- リンパ行性転移が多い

問 5 治療方針決定に際して有用な検査を 2 つ選べ。

- 肝硬度測定
- 超音波内視鏡検査 (EUS)
- 上部消化管内視鏡検査
- BT-PABA 検査

e. ICG 試験

問 6 ICG15 分値 15%、MRI では腫瘍は 4 病変認め、明らかな門脈栓は認めない。治療として適切なものはどれか。

a. 肝移植

b. 肝切除術

c. 肝動注化学療法

d. ラジオ波焼灼療法

e. 肝動脈化学塞栓療法

【回答・解説】

アカラシア

① b,c,e

- a. 男女比は 1:1 である ×→女性の方が多い
- b. 年間発生率は 10 万人対 1~2 人 ○
- c. 発癌率は上昇しない ○
- d. 下部食道括約筋の圧は 40~50mmHg ほどである ×→正常内圧は 15~30mmHg
- e. 食道蠕動波が消失する ○

② a

③ d

HCC→TACE

① d

- a. 約 60%に肝硬変を認める ×
- b. 代償性である CP8 点
- c. B 型肝炎ウイルスが原因として最多である ×HCV が 60%
- d. 辺縁低エコー、モザイクパターンなど ○
- e. リンパ行性転移が多い ×：血行性

② a,e

③ e